

杉並区保健福祉部高齢者施策課主催 いきいきはつらつ塾 地域活動を楽しもう

「地域活動実践者からの活動紹介と意見交換」 いきいきはつらつ塾
活動の紹介

(1)地域ささえ愛グループ グリーングラス

(2)NPO法人 知の市庭(いちば)

(3)松溪ふれあいの家

(4)その他 荻窪地域地区センター

男の料理教室

高円寺東児童館折り紙教室

(司会)健康生きがい開発財団 鈴木啓三氏

(司会)鈴木啓三さん

みなさまこんにちは。只今ご紹介に与かりました私は厚生労働省管轄の財団であります「健康生きがい開発財団」で専任講師をやらせて頂いております鈴木です。今日は司会進行をさせて頂きます。よろしく申し上げます。

では、さっそく地域でご活動をされている3人の方々に、大体一人15分位ずつご発表をして頂きたいと思えます。トップバッター「グリーングラス」の井内さんよろしく申し上げます。

井内みつさん

『グリーングラス』で活動しております井内と申します。

私は、杉並区の高円寺南5丁目にもう40何年住んでおります。その地域で、子育ても済んで子供達も独立して、手の掛からなくなった者達が集まりまして、これから地域で歳を取っていくがこれからどうしようか? 心豊かに老後を過ごすには、どんな風な日々の暮らしを送っていけば良いのか? というようなことを話し合い、その中で、安全な食べ物のこととか、環境のこととか、健康のこと等について学びながら、心豊かな生きがい作りを求めて実践する会を立ち上げました。

こうして『グリーングラス』は、平成8年の4月に誕生しました。

月に1、2回セッションの調理室に集まっておうどんを打って、地域の方達と一緒に昼を食べてその後、頭の体操をしたり体を動かしたりお年寄りの方々と一緒にちょっとおしゃべりをしたりしています。皆さんとても積極的に参加して頂いて、いつも和やかに過ごしております。区から、年に1回バスの提供がありまして、お花見遠足に行ったりお食事会に出かけたりしています。

最初の頃、まだ東保健所と言っておりましたが、そこの保健所の保健婦さんにとっても協力して頂きまして、色々面倒を見て頂きました。ちょうど東保健所には「生活衛生課」というのがあって、食品面の方がいらっしゃったので0157の時にはその方に来て頂いていろいろなお話を聞いて勉強させて頂きまし

た。

そのうちに身近なことで何か自分たちの手を使ってお年寄りと交流できないかな？ と考え出したのがたまたま「うどん作り」だったのです。

私たちも楽しく過ごしておりますが、参加してくださる方達も毎月1回のこの活動をととても楽しみにして下さっています。

「もしもし亀よ」のメロディーに乗せて、ある84歳のおばあちゃんが「お誘い受けて今日もまた、皆様方にお会いして」という歌い出しのうどんの歌を作って下さいまして、それはもうテーマソングになっていて、いつも歌っております。その方、実は大変手先が器用な方でお手玉をたくさん作って下さいます。お手玉を使うことは頭の体操にも良いということで、午後の体操の時間にはそのおばあちゃんが作って下さったお手玉を使って遊んでおります。例えば、お手玉を右手に持って左手に移して左隣の人に渡すという作業は割合にやりやすいのですが、ところが逆に、今度はお手玉を左手に持って右手に移して右隣の人に渡すという作業は、やっぱり難しいことでして、1周するのに時間がかかったり、途中でととても沢山自分の前にお手玉をためてしまったり...、それは本当に賑やかな午後のひと時になります。

「グリーングラス」に最初からとても積極的に参加して下さっている94歳のおばあちゃまなんですが、近くに閉じこもりがちの70幾つのおばあちゃまを「ぜひうどんの会に」って、誘って連れて来て下さいました。

最初のうちは、その70幾つのおばあちゃまは、なかなか心を開いて下さらなくて、いつも、可愛がっているわんちゃんの写真をバックの中に入れていて「今日これ(犬)がね...」っていうお話から始まっていたのですが、会を重ねるごとにととても積極的に参加してお話をして下さるようになって、この頃から、バックの中からわんちゃんの写真が出なくなったのです。こちらから「どうぞ一緒にお昼を頂く方は11時頃にお出掛けください」というお手紙を出すのですが、9時半から10時前には調理室にいらして頂いて「私も何かお手伝いしましょう。」と言って下さったんですね。それが大変私たちには励みになりました。色々この方に出来ることはないかな？ と考えて見守りながらやって頂いております。

こうしてこの頃は段々みんなとお話ができるようになってこられました。

このように私たちは皆様に何かをしてあげるのではなくて、一人一人が「グリーングラス」の一員であるという自覚の基に活動して頂いております。

今は隔月なのですが、運動療法士の真部さんという方が参加してくださって、午後の時間に椅子に座ったり立ったりしながら体を動かしたりだとか、音楽に合わせて一緒に体を動かして体操のようなダンスのようなこともやっております。

この会が誕生しましたときには、まさかこんなに長く続いて来ようとは思わなかったのですが私たち自身が参加してくださる地域の方々の熱意に負けながら一生懸命やっております。

最近読んだ「声に出して読みたい日本語」という本の中に、孔子の一言があり

ました。「老者は之に安んじ、朋友は之を信じ、小者は之を懐く」老人が安心して生活し、友達からは信頼され、若者からは慕われることが望みであると言うような意味です。というようなことが書いてありましたが、日々このような心掛けで私たちも活動したいと思っております。

自分たちの身近な所で小さな活動ではあってもこれからも地道に続けてゆきたいと思えます。ありがとうございました。

(司会) 鈴木啓三さん

グリーングラスの井内さんでした。94歳のおばあちゃんの話は本当に感動ですよね。今「おとなの引きこもり」というのが結構あるのですよ。そういう方を表に出してきて、わんちゃんの写真が出なくなったほど社会的になって、社会参加をして来られたということはとても素晴らしいことだと思います。

この後、今日ご発表して頂いたことについて、講演者の方々に質問をする時間を作っておりますので、何かありましたら色々質問の方もよろしくお願ひします。

では2番バッター「知の市庭(ちのいちば)」の東島さんにご発表をお願いします。

東島信明さん

「生涯学習 知の市庭」の東島です。「市庭」と書いて「いちば」とよみます。神社・寺院の境内や河川の洲などで、昔は市が開かれ市庭(いちば)といいました。市に集い、交歓する様をイメージして、知識・智慧を媒介とする市庭ですと考えるとNPO法人の名前にしました。今日は資料を三つお配りしておりますが、私たちの活動を要約したもの。それから知の市庭のパンフレットに相当するもの。あとは知の市庭の活動表。今日はその中の私たちの活動を要約したものをを使って、おしゃべりをさせていただきたいと思っております。

私は銀行に勤務していた関係で、比較的若い時から公益組織 財団法人、社団法人、公益信託等々 どういう組織を作るのか? どういう目的、主旨で作るのか? またどういうコンセプトをいれたらいいのか? そういうことをよく仕事としてやっておりましたので、この「生涯学習 知の市庭」を設立する際には、サラリーマンがボランティアに参加しやすい要件は何か? ということを頭において、サラリーマン参加型のNPOを作ることを目的にしました。これが設立動機の一つであります。

二つ目の動機は、財団でも社団でも年間を通じてよく講演会を開くのですが、その講演会の内容を文字情報にしてお配りするといったところまでは案外してないのです。それは非常にもったいないなあと考えました。私は戦後派ですが、まだもったいないという言葉が体内に生きておりますので、いろんなお話を聞いたものを、聞きっぱなしにしておくことはもったいないという風に考えました。これが二つ目の動機です。

「生涯学習 知の市庭」のホームページに、生涯施設で行う色々な講演会の

話、それから学級の話、講座の話、色々ありますが、もったいないなぁと感じた物を載せたいと思ったわけです。それには一つ根本的に解決しておかなければならない問題があります。講演録を作成・編集した場合には、おしゃべりをした方に著作物としての著作権があること。著作権というのは基本的にご本人にあって移動はしません。契約を結んで、全ての権利を第三者にお渡しするといった場合は別ですが、基本的にはご本人のものなのです。話した内容を講演録としてホームページに載せて公開しようとする著作権は動きませんが、ホームページに掲載してもいいですよと言うご了解、利用許諾書のご承諾を得る必要があるということです。それから主催者のご承諾も当然頂く必要があります。こういう風にすると、今まで情報化していなかった講演会、講座、学級などの話をホームページに掲載することが出来るという仕組みです。

ではもったいないと思うものを探してみましよう。一番探しやすいのは、私たちの身近にあります「広報」なんです。例えば杉並広報の場合は月に2、3回発行されていると思うのですが、それを見ますと必ず講演会・講座・学級など各地域で催されています。それを各人が判断して、「もったいないな」と思うものを記録として残していきたいと考えています。

まずもったいないと思う話をテープに録音する。基本的には主催者に録音して頂きます。それをホームページに載せるには、話し言葉を読み言葉に直さないといけません。話し言葉の場合、多少主語や述語が抜けていても解ります。2度3度と同じ内容をくり返ししゃべってもそんなに苦になりません。当然講演会では、そういった話し言葉の良さが溢れているのです。もう一つは、おしゃべりをされる方には自分の聞かせ何処、山場が当然3ポイントぐらいはあるのですが、実は、聴いている方に「何処で感動しましたか？」とお聞きしますと、講師がお話した三つのポイント以外のところで感激しましたと言うことが案外多いんですね。

そういうことを踏まえた上で、話し言葉では、主語とか述語などがとかく抜けていますので、これを整理します。重複してお話しされた部分はカットします。こうしてきれいな読み物として記録にして講演録として残します。それをホームページに載せます。

次に、こういう作業をどういった方にやっていただくかということはずいぶん考えました。

IT時代ですから「自宅でお仕事をしたい。」と思っている方がたくさんいらっしゃいます。障害者雇用促進法という法律があって、だいたい50人を超える企業では1.8%の障害者を雇ってくださいよ！ ということなのですが実際1.5%ですから0.3%くらい依然できていないのです。そのための企業負担金を1人月額5万円程度払っているわけですから年間一人あたり60万円かかっている訳です。その60万円の負担金は私にとって、どうでもいいのですが、外に、自由に外出しにくい方々にとって、ご自宅で仕事が出来ると言うことが一番いいのではないかと考えたわけです。自宅でお仕事が出来るように、私たちの活動でして差し上げられれば、私は本望だという考えに至りました。

そこでテープ起こしと編集。話し言葉を読み言葉に直すという一つの芸術をやってみませんかと同志と語り募集をかけてみた所、全国で25人くらいの方が参加したいと名乗りでて頂きました。その方々に私たちの会費から1本いくらという形で講演録を作成・編集をお願いしています。

ホームページを観て情報概念で学習するということなのですが、私たちはバランスも考えて、足も動かそうということで、少し地域活動をしましょうということになり、生涯学習施設である公民館、東京は地域地区センター、美術館、図書館等に必ず講座が設けられています。広報にたくさん案内が出ています。そこに参加しますと、主催者の方、講演者の方、行政の方もいらっしゃいます、そういう方々とお話をして仲良くなると、今度は自分が聞いてみたい講座はどのようなものか、講座企画をしてみたいということが出て来ます。それを私たちのホームページに載せる。ここで知のリサイクルが完結します。これが私たちの「生涯学習 知の市庭」の活動なのです。

なぜ、生涯学習とつけたのか？ 私たちサラリーマンは成果主義と言って、これは成果を争うと言う意味なのですが、良い営業成果がでたら社長賞与が出るというようなことなのですが、知の市庭では、講演録の数が沢山集まった方がいいのですが、集めることを知の市庭の目的にしない、例えば、ネクタイをしないと人と話せない習性を持った人が、必ずしもネクタイをしていなくても人と話せるようになった、そうなるまでのプロセスを自分自身で評価出来たら良いのではないかと思うのです。知の市庭ホームページで講演録を見て、考え、そして生涯学習施設に行ってみよう、そこで親しくなった人たちと聴きたい講演会を自分たちで企画する、企画する過程でいろいろな方々とめぐり合い語らう、学ぶ、今までに接したことの無いような情報を知る、考える、行動する、そういうリサイクル活動を知の市庭の生涯学習と付けました。

この活動を始めてから、これは私の今までの経験上では気がつかなかったなあと驚かされたことがあります。保健婦・栄養士さんの活躍です。保健婦さんのお仕事と言うのは、子供の育児相談ぐらいだろうと実は思っていたのですが、広報を見てみますとお気づきになると思いますが0歳から我々、更に我々の先輩まで、例えば心の問題、環境の問題まで含めて、保健婦・栄養士さんが大活躍しているということが分かったんです。

私達は、これからも色々な講座など収録して参りますが、このような方々の出している情報を少しでも多く取り入れていながらこれからも活動して行きたいなと思います。

(司会) 鈴木啓三さん

ありがとうございました。私もこういう活動があることは初めて知ったのですが、とても素晴らしい活動をされていると思います。また後で興味のある方は沢山のご質問をして頂きたいと思います。それでは3番バッターの「松溪ふれあいの家」加藤さんからご発表をお願いします。

加藤耕一さん

私加藤と申します。途中戦争であちこち逃げたというような記憶もありますが高円寺に約66年住んでおります。

「松溪ふれあいの家」については、その前身である「楽熟会」が発展的に「生きがいの会」を結成して、「松溪ふれあいの家」の介護サービス事業者になったことを御紹介する記事を、14年7月1日号のすぎなみ広報に区長が「楽熟会」ということで広報一面に書いてあります。

私共の「松溪ふれあいの家」は母体がNPO「いきがいの会」なのですが、そこには私以上の年齢層の方が大半です。歳には勝てないのですが、何とかやってきております。

NHKを初めとして、12チャンネルまで、ずいぶんTV番組、それから新聞、雑誌等でもインタビューを受けました。おかけ様で数千万円に匹敵する収入があったのではないかと思うのですが、そういう風に非常に注目されたのですが、何故かと言うと最初はサラリーマンの定年退職者がこんなことを始めるのは珍しいということのようでした。しかも老老介護、老人が老人の介護をする、ということで、非常に珍しいと伺いました。私はそれを当たり前だと思っているので、何らおかしいことだとは思っておりませんでした。最初は質問の内容はそういうところに集中しておりました。

「何故こんな大変なことをやるのですか?」「私も大変だけれども、時の勢いですよ。」とか言ってはぐらかしたりしておりました。

実際、年末年始、日曜・祝日は休業なのですが、土曜日は人手不足ということもあって出勤をするのですよ。週によっては日曜も自分の用事で駆けずり回っていることが多いですからちょっと、はっきり言ってクタクタですね。早く後継者をつくって後を任せたいというのが本音ですね。

何故、私たちサラリーマンの定年退職者が注目されたか?

非常に知識や能力の幅が広いということなのです。それが10人20人集まるとすごい力を発揮できます。よく「俺はこれしかやってこなかった。」とかおっしゃる方がいますが、そんなことは決してありません。みなさまも、ぜひ一歩踏み出して欲しいと思います。

活動を始めた最初の頃は、お客さんが集まらなかったんですよ。今日は2人、明日は3人とかいう具合でした。こちらに来る前に連絡帳簿を読んでおりましたが、例えば今日は17名のお客さんがいらして、女性は2人、男性は15人でした。男性が多いのです。

今から1年位前に開業したのですが、その前に5、6人くらいで2級ホームヘルパーの資格を取りに行っただけです。当時は練馬でしか資格取得講習会をやってなかったので練馬に行きました。

みなさんに言っているのですが、ホームヘルパーは忍耐と辛抱の資格なんですよ。謙遜して言いますと、頭は使わないですよ。2、3年前は資料代が1万円くらいかかったんですが、ただ暇な時でないとい資格は取れません。今日はここには女性の方が多くいらっしゃいますからご主人とか、それに近い方とかに

「ホームヘルパー資格くらい取っておきなさいよ!」とおっしゃっておいて下さい。ただ、話し相手に来てくださるなら、とまあホームヘルパーを取って頂かないことには、うちの方では雇用をするという事になりません。

ところでホームヘルパーの2級の研修中はあちこち実習、訪問介護等に行くのですが、「何でこんなにちいしばっばをやってるんだらう」と我慢が出来なくなる時があるんですね。「何考えているんだらう。」とか「ご利用者が満足するのかな?」などと打ち合わせの時よくみんなでそう言っていました。何としてもね、老人の尊厳を守らんと絶対あかん! という姿勢で今取り組んでいます。ですから男性が多いのではなかろうかと思っています。

私たちは「過去を問わない」、過去に社長やろうが部長やろうが常務やろうがそんなことよりもこれから何が出来るかが重要だ! という理念を持って集まってきましたから、この「いきがいの会」が出来た当初は、誰が何処で、何をやっていたのかぜんぜん分からない状態だったんですが、TVのインタビューなどを受けているうちに少しずつはっきりして来たというという訳でした。今はもうだいたい分かりましたけどね。

例えばコンピューターが得意な方、運転が上手な方、料理が得意な方、そういう人たちが分担してやっています。もっとたくさんの男性に参加して欲しいのですが、家庭の人や身内の人で男の人が出て行って喜ぶのは奥さんでしょ? 旦那も分かってるのに中々出て行かない。もしも「松溪ふれあいの家」に見学に来たいということでしたら大歓迎しますからいつでも来て下さい。

パンフレットにもありますけれども、私達の今日のプログラムをちょっと紹介します。まず、朝から看護婦さんに今日の様子を細かく色々診てもらってから体操 今日太極拳の先生が来られてやって下さいました。その前に出席者の自己紹介もありました。その後、11時45分頃からお昼ご飯を食べています。そのあと、ボランティアの方に入って頂いて囲碁、将棋、パソコンそれからオセロや歌もと、今日もやっている筈です。決して嫌いなものはやって頂かなくて良いと、好きなことだけをや頂ければ良いですという姿勢でやっております。

今日一緒に来ている方で103歳の方がいらっしゃるんですが、以前その方が別のふれあいの家に行っている時にどうしてもこっち(松溪)に移りたいと相談を受けたことがありました。それで「どうしてですか?」とお聞きしたら、将棋や碁をやりたいからだといわれました。今行っている所はやらせてもらえないんだと言うような言い方だったと思います。それを聞いて私は、何としてもこういう人の望みを叶えてやりたいと思いました。僕は足の方で稼いでいるつもりなのですが、とにかくお年寄りに高齢者の尊厳を守りつつ好きなことをして頂くという理念でやっております。

スタッフは現在だいたい30数人いて、10人前後、交代で来て活動しております。広報杉並でもご覧になったと思うのですが今「ふれあいの家」で募集をかけていないのはうちだけじゃないかと思っております。それは有難いことで比較的人が辞めない「ふれあいの家」だからじゃないかと思っております。いらっしゃる方が

増えてきましたので、そのうちには募集をかけなければいけないと思っていますところ。現在、20人と定員が決められていて登録者は77名です。開設から3年間は、区から運営委託費が出ておりますが、平成16年度からの自立経営に向けて、今頑張って動いているところです。

(司会) 鈴木啓三さん

21世紀の大きな課題の一つに『介護』というのがありますけれども、サラリーマンであった方が定年退職後にこの『在宅サービスセンター』というものをお造りになった。とっても素晴らしい活動だと思います。

それではこの3人の方々の活動紹介は一応終わります、もうあと三つほど体験先がございますのでその方たちに短い時間ではありますがご発表をお願いしたいと思います。

ではこれからは見学先の一つであります『男性の料理教室』その後『萩窪地域区民センター』『高円寺東児童館』についてのお話を承りたいと思います。尚『萩窪地域区民センター』『高円寺東児童館』は区の職員の方がお話になられます。

中原敬介さん

高井戸保健センターで自主グループの中の「男の料理教室」というのをやっております。火曜と水曜があり、私は水曜日グループの責任者としてやっております。きっかけは約2年程前に富士見ヶ丘町会で「男の料理教室をやる」ということで町会の中でおやりになった時に、広報を見てそれから参加したのです。その時に非常に人が集まりましてその結果、何とか料理教室のメンバーを解散しないで継続してやってみないか？ というお話があって、保健センターの調理室を使って、私たちみんなで努力しながら1年間を過ごした訳です。先生は保健センターの栄養士さんをお願いをしていました。

ところが1年は面倒を見てくださるんですが、1年を過ぎますと栄養士さんのお付き合いは終了ということになっていました。ただ会場は使えるということで、じゃあ自主グループとして立ち上げましょうということになったのです。保健センターの中に自主グループはかなり沢山あるのですが、その中の一つとして「男性の料理教室」が出来ました。

当初は火曜日だけだったのですが、非常に沢山の応募があったんですよ。30名くらいだったと思うのですが、保健センターの調理室というのは、ガス台が三つしかありません。流しは2ヶ所...いや3ヶ所です。ということはせいぜいそれに対応する人数しか無理なのです。30人集まると1グループ10人ですよ。絶対手持ち無沙汰で見ている人が出てくるのです。料理は見ているも上手くならないですね。食べれば味は分かりますけど、ある程度技術が進んだ方ならともかく初めてのの方が見ているも決して上手くはないんです。

「私は料理したことがない」という方がかなり集まって来たので、この方たちは一体何をやるのかな？ と思っていたら、「料理はしたことはないけど、しょっ

ちゅう洗い物はしてるんだ。」と言って一生懸命後片付けして洗われているのですね。それはそれで一応は料理に参加をしているということでもいいのかなぁと思ったりもしたのですが、やっぱり出来るだけ皆さんに調理に参加して頂きたいなぁと思って、ネギの一本でも切って頂くように努力しておりました。でもこれだけ人数が多いともうどうしようもなくなりまして、「僕はやめるよ。人数を減らした方がいい」と言ったところ、それなら水曜日に増やしましょうよということになって、水曜日と火曜日の会に分けたのです。

現在水曜グループが出来てほぼ1年になるのですが、丁度10人くらいなんです。それも出てきたり来なかったりすることもありますから常時参加している人数は8人くらいだと思います。これだと絶対に必ずみなさん方が調理を出来ます。だいたい1回に2、3品ずつやっております。

自主グループですので年会費を1000円集めています。それから1回の料理のお金を500円集めております。余れば次のときに使う、足りなかったら、前の分からちょっと補うといった形で、お汁も含めて何とか3品ぐらいは食べられるという現状です。この参加者の中に、今泉さんが参加して下さっていますがかなり腕を上げられました。

自分たちの活動なので次に作る料理は自分たちで決めています。それから買い物も自分たちでやっております。いつ奥さんがいなくなっても大丈夫なように、食べていける様に(笑)皆で楽しく取り組んでいます。実は来週の水曜日が私共の「水曜日の男性料理教室」になっております。

また何かご質問がありましたらこの後残っておりますのでどうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

(司会) 鈴木啓三さん

ありがとうございました。それでは引き続き「萩窪地域区民センター」のことにつきまして区の職員でいらっしゃいます榎本さんの方から願ひします。

榎本潤子さん

「萩窪地域区民センター」という所に見学に行きたいのですが、「区民センター」というのは杉並区には7ヶ所ありまして、みなさんご存知かと思うのですが、区民の方が交流をする場、図書のコナーがあったり集会所があったり、ちょっとしたロビーがあったり、碁とか将棋とか簡単に嗜んだりする所、それから会議室だとか多目的のそういった部屋が沢山ありまして色々な方々が、様々な自主グループがそこで活動している所、あと色々なイベントを企画したりということもやっているようです。

この場所を運営して頂いているのは、区民の方の代表によって結成された「運営協議会」です。この方々が、地域のイベントなどを企画するという形で成り立っています。ここに萩窪で七夕祭りというものをやるということで案内のチラシを持ってきているのですが、そういった催しも運営協議会の方が色々な団体の方と連携、協議しながら企画していく様です。詳しいことは私もそれ以上は

分かりませんのでこの次見学に行った時に、ぜひ色々お聞きになって頂きたいなと思います。

今回の見学は、こういった運営協議会の方々が、定例的に会議を開いて地域の企画を何にしようかとご相談をしている処です。それから地域区民センターはすごく色々なグループが本当に沢山活動をしてらっしゃるようですので、そういった活動を見て頂いて、それから具体的な活動についてご案内して頂くという風な予定になっております。

萩窪は特に杉並区でも一番古い区民センターで結構色々な団体がすごく活発になろうということで活用している様です。ぜひ一緒に行って教えて貰おうかなと思っております。よろしくお願い致します。

(司会) 鈴木啓三さん

ありがとうございました。最後になりましたけれども、「高円寺東児童館」で行われております折り紙教室について区の職員の仁科さんからお願いします。

仁科祥子さん

では私の方から「高円寺東児童館折り紙教室」についてご説明致します。区には46ヶ所の児童館がございます。子供たちが放課後に学校が終わった後に、遊びに行ったり、お母さんが働いている家庭のお子さんを預かってくれる、そのような施設になっております。高円寺東児童館には、地域の、杉並のお年寄りのおばあちゃんなのですが、このおばあちゃんがボランティアで月に2回定期的に折り紙の指導にいらして下さっているのだそうです。

行事と娯楽を対象にした折り紙ということで40分から2、30分くらいの時間を使ってやっております。これを月1回水曜日にやります。もう一つクラスがあって、これは小学生を対象とした講座になっております。毎月1回金曜日の午後3時から4時に実施するそうです。このおばあちゃんが子供たちに言われて、季節の折々の折り紙を教えているそうです。

今ですと梅雨時ですから紫陽花の上に、かたつむりが乗っているような物だとか、これは、クワガタとか鶴の変形、簡単な物になるとヨットみたいな物とか、そういうものを教えてくださるそうです。

高円寺東児童館の折り紙教室については以上です。

(司会) 鈴木啓三さん

ありがとうございました。それではここで活動紹介が三つ見学先の案内が三つ、報告が終了しましたけれども、今ですね、前回、みなさま何処を見学したいかすでにご宣告されている方もいるのですけれども、今日のお話を聴いて、ちょっと見学先を替えたいなと思ってる方もいらっしゃるかも知れませんのでその事に関して、仁科さんからご説明宜しくお願いします。

仁科祥子さん

先にグループ先の表をお渡して、第1希望から第3希望まで記入して頂いたか

と思います。今日お出しになった方もいらっしゃると思うのですが、今日このように活動紹介がありまして、見学先を変更したいと思われた方もいらっしゃると思います。

見学先の変更は出来ますが、第1希望を優先させて頂きますので、ちょっとご希望に添えない場合もあると思うのですが変更の希望があれば私の方まで言っていただけたらと思います。

(司会) 鈴木啓三さん

この「いきいきはつらつ塾」の皆さんは塾生ですが、点在する地域で何かを始めるきっかけ作りをするというのがこの塾のねらいであります。皆さんの中にはすでに地域でご活動されている方もいらっしゃるかもしれませんが、これから何か始めてみたいとか、あるいは今まで活動していてまだ余力があるので、別の何か新しい物を始めたいと思っている方のためにございますので、休憩後に先程の3人の方とあわせまして合計6人の方に対するご意見、ご質問などありましたら皆さんとご発表者との間に意見交換の時間を設けてあります。休憩後に3時10分から再開したいと思いますのでちょっと一服休憩を取ってください。それでは休憩に入ります。